

予防歯科学

責任者・コーディネーター	口腔医学講座（予防歯科学分野） 岸 光男 教授				
担当講座（分野）	口腔医学講座（予防歯科学分野）				
対象学年	3	区分・時間数	講義/演習	実習	
期間	前期		前期	24.0時間	6.0時間
			後期	—	—

学修方針（講義概要等）

予防歯科学の内容は、個人の口腔保健管理のための臨床予防歯科学と集団の口腔保健管理のための口腔衛生学に大別される。前者の臨床予防歯科学では専門性の高い介入方法を用いて口腔疾患の予防手段を実施しその効果を評価する。代表的な口腔疾患の病因ならびにリスク因子を理解し、それぞれ疾患のそれら因子に対して科学的に効果的な予防手段を選択できるように学修する。実習では臨床における口腔保健管理の基本であるブラッシング指導の実施と評価法を学ぶ。後者の口腔衛生学では、第2学年時に「衛生学・公衆衛生学」で学修した集団に対する全身の健康管理に関する知識を口腔保健に適用することを目的に学習する。臨床予防歯科学と比較して専門性は低いことになることを目的に学修する。また相互実集団により、口腔保健管理の基本である歯科集団健診とその数量化を行う。

教育成果（アウトカム）

個人予防歯科学の学修により、口腔疾患の病因とリスク因子を理解し、それらを科学的方法で評価することができるようになる。それにより臨床において、疾病発生前にリスクを評価し、適切な予防手段を提供することができるようになる。
口腔衛生学の学習により、地域の特性に応じた地域口腔保健活動計画の立案の方法を理解できるようになる。さらに、口腔疾患の数量化を修得することにより、介入の効果判定を科学的に行えるようになる。

（関連するディプロマポリシー：1、4、5）

到達目標（SBOs）

齲蝕のリスクを列挙できる。
齲蝕のリスク評価法を列挙できる。
齲蝕のリスクに対する予防法を列挙できる。
フッ化物による齲蝕予防機序を説明できる。
歯周病のリスクを列挙できる。
歯周病のリスク評価法を列挙できる。
歯周病のリスクに対する予防法を列挙できる。
その他の代表的な口腔疾患を列挙できる。
周術期の口腔保健管理の意義を説明できる。
プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを概説できる。
ライフステージ毎（母子保健、学校保健、産業保健、成人・高齢者保健）の地域口腔保健活動の概要を説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

（事前学修：最低30分を要する 事後学修：最低30分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/5 (金)	2	岸 光男教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	口腔の付着物 口腔の付着物を理解する。	1. ペリクルの構成成分と生理機能を説明できる。 2. 口腔バイオフィルムの定義を説明できる。 3. 歯垢、歯石の形成機序と為害性を説明できる。 [PS-04、S0-02、C-4-1-2、D-5-1-1・2・4・5] 事前学修：教科書p. 16-34を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	4/17 (水)	2	岸 光男教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	齲蝕と歯周病の要因とリスク評価1 齲蝕と歯周病に対するプラークの関与を学ぶことによりその発生要因とリスク評価法を理解する。	1. 齲蝕の定義および発生要因を理解する。 2. 歯周疾患の定義および発生要因を理解する。 [PS-04、S0-02、D-5-1-1・2・4・5] 事前学修：教科書 p. 35-47, p. 57-68 を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	4/19 (金)	2	岸 光男教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	齲蝕と歯周病の要因とリスク評価2 齲蝕と歯周病に対するプラークの関与を学ぶことによりその発生要因とリスク評価法を理解する。	1. 齲蝕活動性試験など齲蝕のリスクファクターおよび早期発見のための検査方法を説明できる。 2. 歯周病のリスクファクターおよび早期発見のための検査方法を説明できる。 [PS-04、S0-02、D-5-1-1・2・4・5] 事前学修：教科書 p. 148-153, p. 160-166 を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	4/24 (水)	2	佐藤俊郎講師 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	口腔疾患の疫学指標 口腔疾患に固有の疫学指標を学ぶことで歯科疾患とリスクの分布頻度を把握できるようになる。	1. 歯科疫学調査の特性を概説できる。 2. 齲蝕の疫学指標を列挙できる。 3. 歯周疾患の疫学指標を列挙できる。 4. 口腔清掃度の疫学指標を列挙できる。 5. その他の歯科疾患（歯のフッ素症、不正咬合、など）の疫学指標を列挙できる。 [PS-04、C-6-1-3、D-5-1-5] 事前学修：教科書 p. 148-153, p. 106-135 を読んで疑問点を整理しておくこと。

講義	4/26 (金)	2	佐藤俊郎講師 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	プラークコントロール、歯磨剤 プラークコントロール および歯磨剤について 学習することにより、 齲蝕、歯周病における 予防法について理解す る。	1. プラークコントロールの意義および種類について説明できる。 2. 口腔の不潔物に関する疫学指標について説明できる。 3. ブラッシング方法の種類とその特徴を説明できる。 4. 補助清掃用具の種類とその使用方法を説明できる。 5. 歯磨剤の種類を列挙できる。 6. 歯磨剤の基本成分および薬効成分を説明できる。 [D-5-1-2・3・6、E-5-2-1・2・3] 事前学修：教科書 p.172-183, を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	5/1 (水)	2	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	齲蝕の予防：フッ化物の応用、予防填塞 齲蝕予防のためのフッ 化物応用法と予防填塞 について理解する。	1. 自然界のフッ化物について概説できる。 2. フッ化物の人体に対する為害作用を説明できる。 3. フッ化物の齲蝕予防機序について説明できる。 4. フッ化物の全身応用法、局所応用法を列挙できる。 5. 予防填塞法の意義と術式を概説できる。 [D-5-1-1・2・6] 事前学修：教科書 p.48-56, p.155-159 を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	5/8 (水)	2	岸 光男教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	口臭、その他の歯科疾患の予防 口臭の診断・予防を理解する。 齲蝕と歯周疾患以外の 口腔疾患を学習するこ とで、様々な口腔内の 疾患を理解することが できる。	1. 口臭の分類を説明できる。 2. 口臭の原因を説明できる。 3. 口臭の予防と処置を説明できる。 4. 歯の形成不全・酸蝕症・歯のフッ素症を説明できる。 [D-5-1-1・4、E-5-2-6] 事前学修：教科書 p.69-74, p.167-171 を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	5/15 (水)	2	杉山由紀子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	周術期口腔ケア概論 周術期の口腔ケアの意 義を理解する。	1. 周術期の口腔ケアの意義を概説できる。 2. 周術期の口腔症状を列挙できる。 3. 口腔カンジダ症について説明できる。 [D-6-2-1・3] 事前学修：教科書 p.197-203 を読んで疑問点を整理しておくこと。

講義	5/22 (水)	2	相澤文恵 非常勤講師 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	ライフステージに対応 した健康教育と禁煙支 援 食生活指導・禁煙支援 における歯科医師の役 割を理解することがで きる。	1. 健康教育の定義と目的を説明できる。 2. 健康教育の要素（ヘルスリテラシー、エンパワーメントなど）を説明できる。 3. 歯科医師が禁煙介入を行う理由（喫煙による歯・口腔への影響など）を説明できる。 4. WHOの簡易的禁煙支援を説明できる。 [C-5-6、D-5-1-4、E-5-2-4~7] 事前学修：教科書 p.97-105, p.184-190 を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	5/29 (水)	2	岸 光男教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	地域保健総論 地域保健の基本的な考 え方および仕組みを理 解する。	1. プライマリーヘルスケアを説明できる。 2. ヘルスプロモーションを説明できる。 3. 地域保健活動の進め方を説明できる。 4. プリシードプロシードモデルを概説できる。 5. 保健行政（WHO、厚生労働省、都道府県、市町村の関連など）を概説できる。 6. 保健所と市町村保健センター、地域包括支援センターの役割を概説できる。 [GE-02、PS-10、SO-02・03、C-4-3-1、C-4-2-5・6] 事前学修：教科書（衛生学・公衆衛生学）p.132-139, 教科書（口腔保健・予防歯科学）p.204-224 を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	6/5 (水)	2	岸 光男教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	地域歯科保健各論1 母子保健・母子歯科保 健 母子保健・母子歯科保 健について学ぶことで 地域母子保健における 歯科医師の役割が理解 できる。	1. 母子歯科保健の意義と目的を説明できる。 2. 母子歯科保健活動の仕組みについて説明できる。 3. 乳幼児歯科健康診査について説明できる。 4. 1歳6か月児、3歳児歯科健康診査のう蝕罹患型と保健指導内容を説明できる。 [C-4-2-5・6、C-4-3-1、D-6-2-5] 事前学修：教科書（衛生学・公衆衛生学）p.149-161, 教科書（口腔保健・予防歯科学）p.225-244 を読んで疑問点を整理しておくこと。

講義	6/12 (水)	2	佐藤華子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	地域歯科保健各論2 学校保健・学校歯科保 健 学校保健・学校歯科保 健について学ぶことで 学校保健における歯科 医師の役割が理解でき る。	1. 学校歯科保健の意義と目的を概説 できる。 2. 学校歯科保健活動の仕組みについ て説明できる。 3. 学校歯科健康診断について説明で きる。 4. 学校歯科医の職務を列挙できる。 [C-4-2-5・6、C-4-3-1、D-6-2-5] 事前学修：教科書（衛生学・公衆衛 生学）p.162-178, 教科書（口腔保 健・予防歯科学）p.245-264 を読 んで疑問点を整理しておくこと。
講義	6/19 (水)	2	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	地域歯科保健各論3 産業保健・産業歯科保 健 産業保健・産業歯科保 健について学ぶことで 産業保健における歯科 医師の役割が理解でき る。	1. 産業歯科保健の意義を説明でき る。 2. 職域における歯科保健管理につい て説明できる。 3. 口腔に症状を表す職業性疾患の原 因物質を列挙できる。 4. 口腔に症状を表す職業性疾患の予 防法を説明できる。 [C-4-2-5、C-4-3-1] 事前学修：教科書（衛生学・公衆衛 生学）p.179-191, 教科書（口腔保 健・予防歯科学）p.265-273 を読 んで疑問点を整理しておくこと。
講義	6/26 (水)	2	岸 光男教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	地域歯科保健各論4 成人・高齢者の保健・ 歯科保健と介護保険制 度 成人・高齢者の保健・ 歯科保健と介護保険制 度を学ぶことで超高齢 社会の保健福祉につい て理解する。	1. 成人・高齢者歯科保健の意義と目 的を概説できる。 2. 成人・高齢者の歯科保健の現状を 説明できる。 3. 介護保険制度の意義と目的を概説 できる。 4. 介護保険制度の仕組みを概説でき る。 [C-4-2-5、C-4-3-6] 事前学修：教科書（衛生学・公衆衛 生学）p.192-222, 教科書（口腔保 健・予防歯科学）p.265-273, 287- 295 を読んで疑問点を整理してく ること。
講義	6/28 (金)	3	米満正美 非常勤講師	特別講義 疫学特論 社会歯科学の学修後に 歯科疾患の疫学を学び 直すことで疫学的知見 が社会の中でどのよう に役立っているかが理 解できる。	1. 歯科疾患の疫学が国民保健にどの ように貢献しているかを概説でき る。 [S0-02、C-5-5、D-5-1-1・2、C-6- 1-1・3] 事前学習：2年生科目「衛生・公衆 衛生学」3, 4 疫学Ⅱ、疫学Ⅲの講 義資料を確認しておくこと。

講義	7/3 (水)	2	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	国際保健、国際歯科保健 国際保健を学ぶことにより医療人としてのグローバルな社会貢献の方略が理解できる。	1. 国際保健の意義を概説できる。 2. 歯科保健の二国間協力と多国間協力を区別できる。 3. WHO, NPO, NGO, JICAの役割について説明できる。 4. WHOの開発途上国での口腔保健戦略を列挙できる。 [C-7-2・3・4・5] 事前学修：教科書（衛生学・公衆衛生学）p. 240-246, 教科書（口腔保健・予防歯科学）p. 306-313 を読んで疑問点を整理しておくこと。
----	------------	---	--------------------------------	---	---

実習日程表

実習	6/14 (金)	3 ・ 4	岸 光男教授 佐藤俊郎講師 大石泰子助教 佐藤華子助教 杉山由紀子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野) 相澤 譲 非常勤講師 高橋雅洋 非常勤講師	歯科集団検診 歯科集団検診の実施を相互に体験することで歯科集団検診の意義と注意点（バイアス、実施リスク）が理解できる。	1. 歯科集団検診に必要な器具を列挙できる。 2. 歯科集団検診の基準統一について説明できる。 3. 歯科集団検診の手技を経験できる。 4. 歯科集団検診結果を集計できる。 [C-4-2-5・6、C-4-3-1、D-6-2-5] 事前学修：実習書の内容を良く確認しておくこと。実習書は実習1週間までに配布する。
実習	6/21 (金)	3 ・ 4	岸 光男教授 佐藤俊郎講師 大石泰子助教 佐藤華子助教 杉山由紀子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	口腔清掃度評価 ブラッシング指導 口腔保健の必要性を学ぶことによって、口腔清掃状態を評価し、個人の口腔内状態に応じた口腔衛生指導を理解する。	1. 口腔清掃状態の指標を説明できる。 2. 相互実習でプラークの付着状況などの口腔清掃状態を評価できる。 3. 口腔保健の必要性を説明できる。 4. 個人に対応した口腔衛生指導を列挙できる。 5. 相互実習でブラッシング方法を説明し、実践させることができる。 [D-5-1-1~5] 事前学修：実習書の内容を良く確認しておくこと。実習書は実習1週間までに配布する。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	口腔保健・予防歯科学 第2版	安井利一ほか 編	医歯薬出版	2023年
教	新編 衛生学・公衆衛生学 第1版	安井利一ほか 編	医歯薬出版	2021年

成績評価方法・基準・配点割合等

定期試験 90%
平常点（ポストテスト、実習レポート）10%

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

講義前にWebClassに資料を提示するので事前学習に利用すること。
非常勤講師担当以外の講義では講義前後に試験（プレテスト、ポストテスト）を行い、結果は次の講義前にフィードバックする。
提出されたレポートは、採点后、コメントをつけて返却する。

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき器械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的